

東北地方 1か月予報

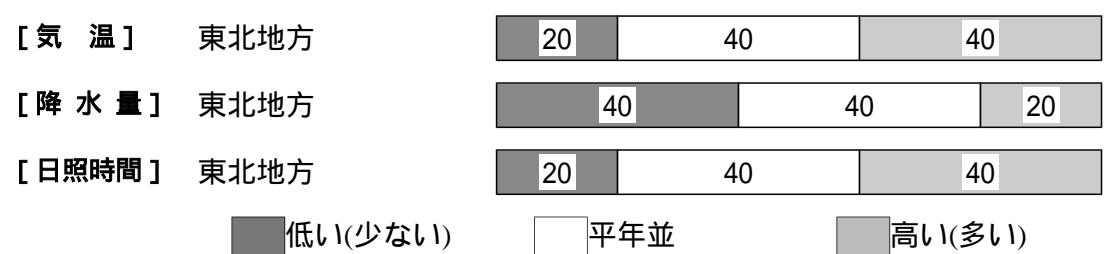
(8月26日から9月25日までの天候見通し)

平成18年8月25日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

天気は数日の周期で変化し、平年に比べて晴れの日が多いでしょう。
向こう1か月の平均気温は東北地方で平年並か高い、降水量は東北地方で平年並か少ない、日照時間は東北地方で平年並が多いでしょう。
週別の気温は、1週目、2週目は東北地方で平年並、3～4週目は東北地方で高いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 8月26日(土)～9月25日(月)
1週目 : 8月26日(土)～9月1日(金)
2週目 : 9月2日(土)～9月8日(金)
3～4週目 : 9月9日(土)～9月22日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は9月1日
3か月予報：9月25日(月) 14時
寒候期予報：9月25日(月) 14時

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温 ()	降水量 (mm)	日照時間 (時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
青森	19.8	134.3	168.3	21.9	20.9	18.9
深浦	20.0	183.8	164.1	22.1	21.0	19.1
むつ	18.8	186.1	146.2	20.7	19.7	18.0
八戸	19.5	185.1	148.8	21.3	20.4	18.6
秋田	21.0	196.2	166.9	23.3	22.0	19.9
盛岡	19.4	183.8	129.3	21.8	20.5	18.3
大船渡	20.2	244.2	125.9	22.1	21.1	19.3
宮古	19.5	240.9	129.8	21.4	20.3	18.6
仙台	21.3	226.7	125.9	23.2	22.2	20.3
石巻	20.8	172.6	141.4	22.7	21.8	19.9
山形	20.9	154.3	139.8	23.4	22.0	19.7
新庄	20.2	170.0	125.5	22.6	21.3	19.1
酒田	21.5	203.7	163.0	23.7	22.5	20.5
福島	21.8	177.8	122.7	24.1	23.0	20.7
若松	21.1	142.1	143.1	23.7	22.3	19.9
白河	20.1	244.8	120.9	22.4	21.3	19.0
小名浜	22.1	205.9	150.9	23.7	22.9	21.3

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.5 ~ +0.4	85 ~ 114	94 ~ 107
東北日本海側	-0.6 ~ +0.5	85 ~ 109	95 ~ 107
東北太平洋側	-0.5 ~ +0.3	83 ~ 117	91 ~ 109

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.6 ~ +0.7	-0.8 ~ +0.7	-0.4 ~ +0.4
東北日本海側	-0.7 ~ +0.7	-0.8 ~ +0.7	-0.5 ~ +0.4
東北太平洋側	-0.6 ~ +0.8	-0.7 ~ +0.7	-0.5 ~ +0.4

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成18年8月25日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(8月26日～9月25日)：

天気は数日の周期で変化し、平年に比べて晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

1週目(8月26日～9月1日)：

期間の初めは高気圧に覆われて、概ね晴れます。その後は気圧の谷の影響で曇りの日が多く、期間の中頃は雨の降るところがあるでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

2週目(9月2日～9月8日)：

天気は数日の周期で変化し、東北日本海側は平年と同様に晴れの日が多く、東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が少ないでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

3～4週目(9月9日～9月22日)：

天気は数日の周期で変化し、平年に比べて晴れの日が多いでしょう。

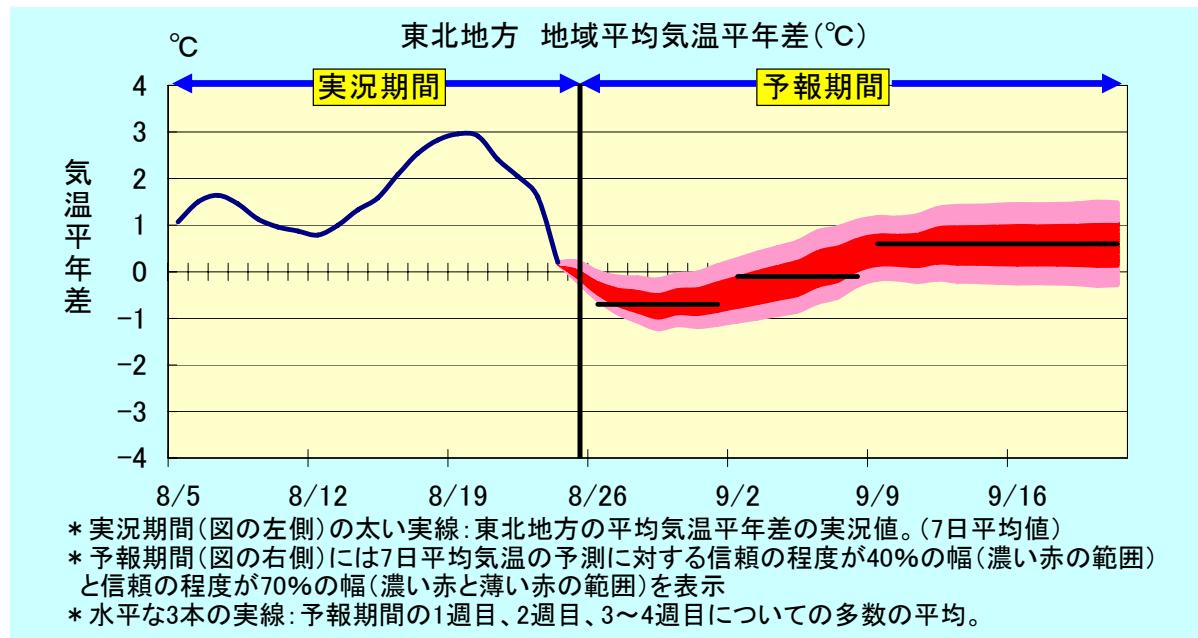
平均気温は高いでしょう。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3～4週目
東北日本海側	13.9日	3.8日	3.6日	6.5日
東北太平洋側	12.0日	3.2日	3.0日	5.8日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目を「低い」、2週目を「平年並」、3～4週目を「高い」と予測している。予報は、その他の資料から、1週目を「平年並」とする。なお、数値予報の信頼度は小さい。

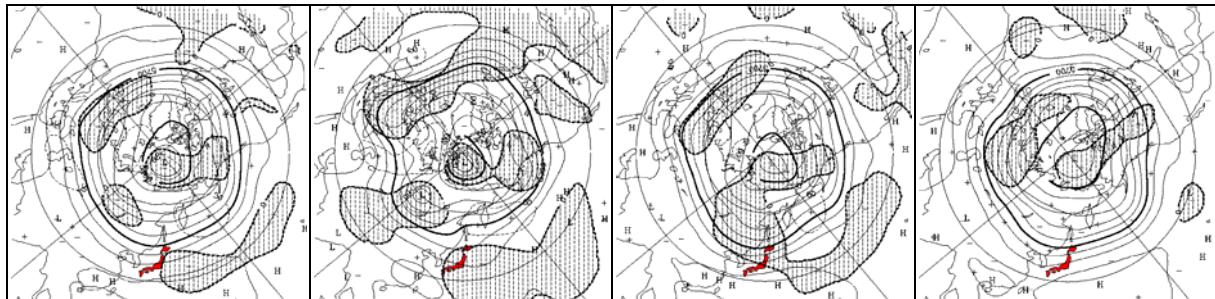


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、極付近が負偏差で中緯度帯は概ね正偏差。バイカル湖付近と日本の東海上は負偏差だが日本付近と中国大陸はほぼ正偏差。高圧部が日本の南海上に東西に広がる。

1週目は、日本付近はほぼ負偏差。中国大陸の東は正偏差で、カムチャツカ半島付近は正偏差の中心。2週目は、中国大陸から西日本が正偏差。負偏差は極から中国東北区を経て東日本以北まで、アリューシャン付近で正偏差。亜熱帯高気圧が日本の南海上に東西に広がる。3~4週目は、中国大陸から日本付近と太平洋まで広く正偏差となり日本の南には亜熱帯高気圧が広がる。



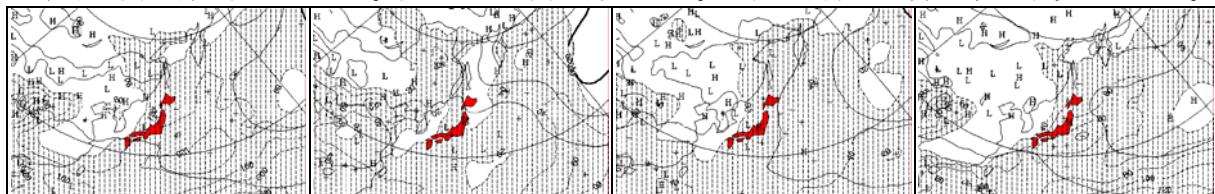
500 hPa 高度予想図（左から）1か月平均、1週目平均、2週目平均、3~4週目平均

実線：等高度線（間隔 60m）、点線：平年差（間隔は1か月 30m、週別 60m）、陰影部：負偏差域（一般に寒気に対応）

地上気圧と降水量：

月平均では、日本の南岸には降水域が帶状に広がり、その付近は弱い低圧部。東北地方の降水域は弱い。

1週目は、カムチャツカ付近の高圧部が北海道付近までかかる。明瞭な降水域は朝鮮半島以西。2週目は、オホーツク海と日本の南岸に低圧部がみられる。日本の東海上にまで高圧部が広がり、日本付近に強い降水域はない。3~4週目は、オホーツク海に低圧部があるが、北海道の東沖には太平洋の高圧部が伸びている。本州付近は高圧部となる。日本の南岸には降水域が帶状に広がる。



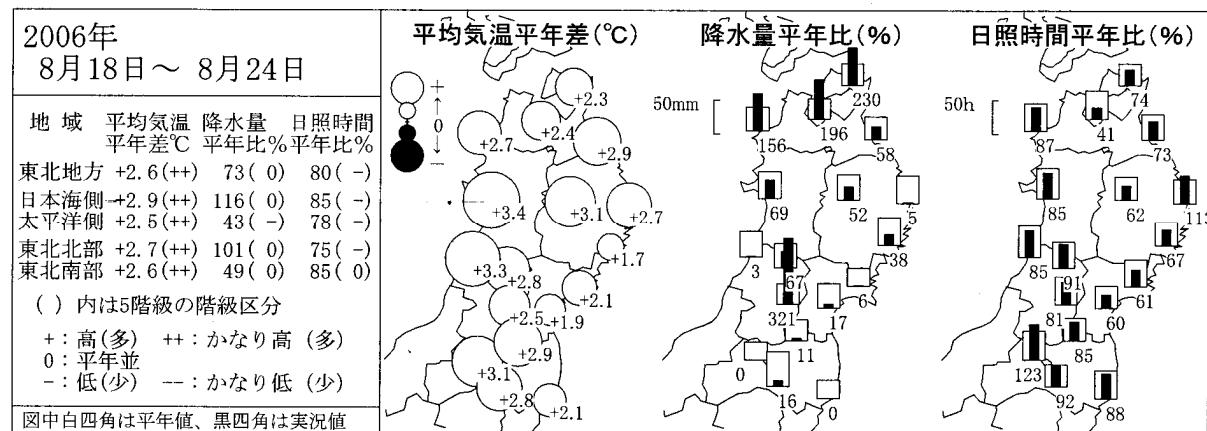
地上予想天気図（左から）1か月平均 1週目平均 2週目平均 3~4週目平均

実線：等圧線（間隔 4 hPa）、陰影部：降水域（1か月 80mm 以上、1週目・2週目 20mm 以上、3~4週目 40mm 以上）

4. 最近1週間（8月18日～8月24日）の天候の経過

この期間、南から湿った暖かい空気が入り込んで大気の状態が不安定となり短い間に強い雨の降ることが多かった。18日は暖湿気が入り込み大気の状態が不安定となり、大雨となるところがあった。19日から20日には南東風が入り込み日本海側では晴れのところが多かったが、その後台風第10号から変わった低気圧が日本海を進み南から湿った暖かい空気が流入したため、21日から22日は日本海側を中心に、23日は太平洋側を中心に雨や雷となるところがあった。24日には前線の通過に伴い東北北部でにわか雨となるところがあった。

平均気温は東北地方でかなり高い。降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で少ない。日照時間は東北北部で少なく、東北南部で平年並。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）